

## 「学校経営目標」と「令和8年度重点目標」に向けて

学校教育目標 東小倉という町に愛着をもち、誰もが明日も登校したくなる学校の創造。

- (重点) ○主体的・対話的で深い学びの視点からの不断の授業改善による学びの充実。  
○お互いの良さを認め合い、協働して課題や活動に取り組める場面の保障。

### 豊かな人間性

- 規範意識の向上
  - ・「学校スタンダード」の実効性を高める。
- 自他を大切にできる心情や態度の育成
- OESDの視点に立った教育課程(道徳、総合、キャリア)

### 健康・体力

- 体力向上への意識向上
  - ・教科体育の充実。新体力テストの実施と活用。
- 自身の健康に関心をもち、実践する態度の育成。
  - ・保護者と連携した健康管理。

## 資質・能力の育成

何ができるようになるか

○学校教育の基本

- ・課題や問題に対する自分の考えをもつ。
- ・自分の考えを友達と交流し広げ深める。
- ・身に付けた力を他教科や生活で生かす。

何が身に付いたか

○学習評価を通じた学習指導の改善

- ①感性を働かせながら思いや考えを効果的な方法や言葉で表現している。②情報を結合したり条件付けたりしながら自分の考えを修正し、深めている。③自らの学習に見通しをもって取り組み、粘り強く調整しながら学びを深めている。

子供の実態

自分の考えを交流する楽しさを感じている子が多くいる(課題)説明する力、語彙不足、メモする力など

子供の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- 〈個々の思いや考えを価値付ける〉
- ・多くの教員目で子供を見取り、情報交換しながら個別の支援をする。
  - ・ICTを含む学習用具の工夫をする。

目指す子供の姿

進んで伝えよう  
思いを受け止めよう  
豊かにかかわり合おう  
別紙：学年別系統表参照

何を学ぶか(教育課程の編成)

- ・教科が示す「見方・考え方」を働かせて考える
- ・考えたことを友達と伝え合い、広げ、深める。
- ・学んだことを記録したり説明したりする。

どのように学ぶか(教育課程の実施)

- 「聴いて→考えて→つなげる」学習を日常的に実施し、「主体的・対話的で深い学び」の充実を図る。○「ことたま」によってスキルを高める。○自らの学びを見通し、振り返る力が身に付く学習活動を行う。

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 「チーム東小倉」としてのカリキュラム・マネジメント
- 外部講師を入れた研究、研修
- 保護者ボランティアをはじめとする地域人材の活用
- 交換授業
- ICT機器の活用

安心・安全を守る

・「学校安全マニュアル」「学校スタンダード」の実効性を高め、心身ともに安心な学校を目指す。

開かれた学校づくり

- コミュニティ・スクールによる学校運営
- ・学校教育目標の共有
- ・地域貢献への取組